



# 「点字を身近に感じ、理解を深めてほしい」

## ～株式会社キングジム「点字体験授業」

株式会社キングジムは、墨字（普通にかかれる文字）と点字の両方が印刷できるラベルライターを用いた点字体験授業を通して「福祉教育」をサポートする取組を行っています。点字をより身近に感じてもらい、視覚障害者がどのような環境で過ごしているのかを理解するきっかけとなることをねらいとしています。

今回は、キングジムの点字体験授業が行われた武蔵野市立井之頭小学校（飯田信夫校長）の様子を紹介します。

今回伺った井之頭小学校は、障害のある人への理解を深める教育に力を入れています。特に手話には意欲的に取り組み、児童全員が手話を行いながら校歌を歌えるそうです。今回



点字ラベルを作成する様子

は5・6時間目の総合的な学習の時間を使い、5年生2クラス合同で授業が行われました。講師を務めるのは、CSR委員会の呼びかけで集まった広報部、電子文具開発部、営業本部など様々な部署に所属している株式会社キングジムの12人の皆さんです。

はじめに、点字のしくみとラベルライターの使い方についての説明が行われました。点字は上下逆になると異なる文字になってしまうため、天地に注意することが必要であるなどの説明に、子供たちは熱心に聞き入っていました。

その後、説明を受けた子供たちはグループに別れ、まずは自分の名前ラベルを作り始めました。ラベルライターは、キーボードで入力した文字がラベルとなって印刷され、その後ラベルを別の挿入口に差し込むと、文字が点訳され点字が打刻されます。子供たちは、点字の感触や打刻される音が新鮮だったらしく、夢中になってラベルを作成していました。目を

閉じて点字に触れる子供もいて、点字を読むことの難しさを体感したようでした。

そして実際に、「学校やコミュニティセンターで点字の表示が必要だと思うところ」を考え、その表示ラベルを作成する作業が行われました。最初は悩んでいた子供たちも、社員の方や先生にアドバイスをもらいながら、多くの点字ラベルを作成していました。その後実際に作成した点字ラベルを貼りに行く作業を行ったそうです。



点字表と見比べて、点字が正しく打刻されたことを確認します

- ・点訳をマスターしなくても作業を行えるため、手軽に点字と触れ合うことができる
- ・点字ラベルを実際に作成できるので、ただ点字を学ぶだけではなく実践的な活用へと展開することができる

ここがポイント



点字ラベル

### 株式会社キングジム広報部 三浦さん（写真前列中央）にお話を伺いました

2006年に発足したCSR委員会で社会貢献活動を検討するにあたって、キングジムならではのカラーを出すことを考えると、同時期に開発した点字ラベルライターを用いた点字体験授業が良いのではないかと考え、子供たちに点字を分かりやすく伝えるための授業プログラムを作りました。点字刻印機や点字盤などよりも手軽に使えるため、実践的な活用への展開が可能であると考えたからです。2時間という枠組の中で、どのような場所に点字の表示が必要なのかを考えてもらうことを大切にしています。

井之頭小学校での点字体験授業は今年で3年目になり、昨年からは都立高校でも活動を行っています。今後は、取組を更に広げ、活動自体の質も向上できたらと思っています。



株式会社キングジムの皆さん



都立一橋高校では、奉仕体験活動「絵本点訳」（説明1時間、作業5時間）の枠組の中で、計80名程度の生徒が絵本の点訳をラベルライターで作成し、視覚障害のある母親たちのサークル「かるがもの会」（奈良県）に送るという活動が行われました。

【連絡先】株式会社 キングジム  
<http://www.kingjim.co.jp/company/csr.html> (CSR報告書)